

## 青少年のための科学の祭典 in 北海道 2019 の開催について

科学の祭典 in 北海道（実行委員会）

日本の子どもらの理科離れが言われ始めてから久しい。その一方で少子高齢化が進み、地域の活性化が必要とされている。特に北海道では他の地域より 10 年先を進んでいる。この状況で、理科離れ対策は教育界が動き、学校教育以外に「青少年のための科学の祭典」のような科学コミュニケーション活動が 1993 年に札幌で始まった。地域活性化は行政や企業が中心になり作っていく、これは重要な面であるが、それだけでは実現しない。力のある未来の育成には教育の果たす役割も大きい。特に科学教育は重要な役割を果たす。しかし科学教育の場に企業、特にものづくりに携わる企業が、その活躍の姿を見せない限り、ものは作れても将来の人材を引きつけることはできない。これを解決するために、教育・行政・企業が一緒になって地域で科学コミュニケーション活動を行うことで、地域活性化への大きな力になることを目指したい。

東海大学では附属高校も含めて 5 つのキャンパスで To-Collabo<sup>1</sup>プログラムの一つとしてこの試みを行っていた経験と北海道で科学コミュニケーション活動人材育成に実績のある北海道大学 CoSTEP<sup>2</sup>、またメディアでの科学実験指導などで全国的に知られている NPO 法人ガリレオ工房との協力で、このような地域活性化の舞台として、2015 年に「青少年のための科学の祭典 in 北海道」として再出発させた。本実行委員会はその活動をさらに継続・発展させ、地域活性化へ貢献する道を開きたい。



### 活動の特徴：

- 1) 科学の体験実験・工作・観察の場を子どもと一般市民という幅広い年齢層へ提供する。
- 2) 北海道の企業や行政機関も、科学ボランティア、教育関係者とともこのような科学コミュニケーションの場に参加し、その科学技術や研究成果を生かした展示・体験実験・工作の場を作ることで、その企業・行政機関の魅力を肌で感じ取ってもらえる。
- 3) 企業の参加、大型プロジェクト研究者の参加で、協賛金とアウトリーチ資金を提供してもらい、公的機関の補助金を受けなくてもできるようにする。
- 4) 経費の削減をし、通常数千万円かかるイベントを数百万円で開くノウハウを蓄積する。
- 5) 教育・企業・行政の異なる分野の演示講師が集まることで、新知識の吸収と科学実験レベルの向上を図る。
- 6) 異世代間の交流が社会人の演示講師と教育機関の若い世代のアシスタントに生まれ、経験・知識の継承を図る。
- 7) 地域活性化のネットワーク形成を、個別に活動していたボランティアグループの間、そしてボランティアグループと企業・行政のグループとの間に育てていく。

<sup>1</sup> Tokai university COMMUNITY LINKING LABORATORY

<sup>2</sup> COMMUNICATION IN SCIENCE & TECHNOLOGY EDUCATION & RESEARCH